サービスラーニングを終えて

社会福祉学部社会福祉学科 2 年　関口　汐実
活動先：NPO 法人　菜の花　放課後児童クラブこどものいえ
クラス：岡　多枝子　先生

1. はじめに

私は 2 年次のゼミを選ぶ際、あまりサービスラーニングには入りたくなかったが、1 年経った今はこのゼミに入ったことが良かったと心から思っている。それは 6 日間の活動で気づきや学びがたくさんできたからである。これからその気づきや学びについて書いていこうと思う。

2. 夏休みの活動

まず、活動の前に活動先へ事前訪問に行き、そこで活動先の方と「子どもの安全と安心を必ず守り、子どもたちと楽しく遊ぶ」と約束した。その時の私は子どもの安全や安心を守ることも、子どもたちと楽しく遊ぶことも簡単だと思っていたのだが、実際は遥かに想像を超える大変さであった。プールや虫取りに行くまでの道中や、ハサミなどの道具を使う時など常に怪我や事故のないように気をつけていたが、学生で企画したお菓子作りの最中に 1 人の男の子を熱中症にさせてしまうということがあった。おそらく熱中症の原因の一つとして換気をせず、部屋の中でガスコンロを使用したことや水分不足があげられる。私たちの不注意のせいで子どもを危険な目にあわせてしまったことでショックが大きかったが、そこから子どもとつき合う時はある程度の知識を身につけて、大人と子どもの身体の違いも理解し、注意しておくべきだと学んだ。他に気付いたことは、子どもが何を考えているのかを考えることによって子どもの求めている言葉や行動をできるようになること、子どもは私たちには想像もつかないような行動や発言をするので常に怪我や事故に注意しておかなければならないこと、子どもと一緒に居る時は決められた時間の中でも気を長く持ってのんびりと過ごす気持ちで時間を大切にすること、子どもの目線に立つことで子どもの気付きや学び、楽しみに共感することができ、子どもと過ごす時間を大変と思うのではなく楽しいと感じるようになれること、などがある。それから、子どもは注意されればされるほど素直になりにくくなることもあることがわかった。例えば、「ちゃんとご飯を食べて」と言ってもふざけてばかりでご飯を食べてくれない子には「大きな口で食べるところを見せてほしいな」「〇〇君ならできるよね」など褒めることによって素直に子どもが頑張れるようにし、良いほうへ促すことができる。だが、本当に子どもが悪いことをしたときにはきちんと叱らなければならない時もある。そして一番心に残っているのは、活動先の方に「子どもたちへの言葉遣いや態度をもっと気をつけてほしい」と指摘を受けたことである。毎日のプールや虫取りなどに体力がついていけず、子どもたちとトランプをしているときに寝そべってしまった私の姿を見て、活動先の方が悩んだ末に指摘をしてくださった言葉であった。これは非常に情けなく、恥ずるべきことだが子どもは常に大人を見て真似をするので自分が子どもたちの見本であることを常に胸におき、発言や行動に気をつけなければならないということを学ぶことができた。

3. 地域課題と社会課題

私たちは活動先の方と話合い、夏祭りをする計画を立てていた。屋台は地域の方に出してもらい、社協の方にも協力してもらって行う予定だったのだが、惜しくも夏祭りを行うことができなかった。しかし、このように地域の方や社協の方との交流を持つ機会ができればもっと繋がりができるのではないかと私は考える。「日本児童安全学会研究報告」という資料で筆者の石附弘さんは、非行やいじめ、交通事故、犯罪被害など、子どもをめぐる被害が極端に少ない安全の質の高い地域では、関係者の安全センスが高く、単なる事故事件防止の安全活動だけでなく、地域コミュニティの自主性、自立性、自律性、創造性、協働性、開放性など、「子どもの成育に必要不可欠な諸価値」を地域コミュニティの運営理念やコミュニティポリシー（共通のコンセサス）としており、地域の子どもも大人も多数が参加できる多様なイベント等を通じて、子どもも大人もこれを体感し、学び続けていることが幾多のフィールド調査の結果で判明したと述べているが、このように少しずつでもイベントを増やして大人も子どもも交流できる機会が増えれば地域の人みんなが「子どもの安全を守る」という意識が根付いていくのではないだろうか。今回の活動で学生が企画したお菓子作りで作ったお菓子を持って近くの NPO 法人菜の花へ行き、子どもと高齢者が一緒に折り紙や昼食を食べるという機会があったが、子どもにとっても高齢者にとっても、活動先と菜の花にとっても、とても良い機会だったのではないかと私は感じた。同時に、これをもう少し増やしていければ良いとも思った。

3. 終わりに

私の母親は子どもに怒る時に頭ごなしに怒鳴って叱る親だった。そうして育った私は他に子どもに対しての怒り方を知らず、そのようにしか子どもを怒ることができないと思っていた。しかし、今回の活動で子どもにどのように接したらよいのか、なんと言えば伝わるのかを必死で考え、子どもへの注意の仕方や、次の行動への促し方を気づき、学ぶことができた。私もいずれ母親になり、子どもを育てるという立場に立った時、この活動で学んだことは絶対にためになると思うので良い母親を目指し、立派な大人になりたいと思っている。

まだまだ足りなくて失敗ばかりの私たちを受け入れ、悩んだ末に見捨てず指摘をしてくださった活動先の方に言葉では言い表せないくらいの感謝をしている。また、他のゼミでは学べないようなことをこのゼミでたくさん学ばせていただけたことをサービスラーニングの全てに関わる方に感謝し、今後に繋げていきたいと思う。